

2024年11月12日

「今後の鉄道物流のあり方に関する検討会」中間とりまとめに対する KGI/KPIの達成状況について

標題のKGI/KPIについては2022年10月に策定し、その達成状況を決算時期に合わせ半年に1回公表することとしておりましたが、このたび、2024年度上半期実績及び下半期の取組みについて別紙のとおりとりまとめましたのでお知らせします。

別紙

KGI/KPIの達成状況について

【2024年度上半期実績及び下半期の取組み】

2024年11月12日
日本貨物鉄道株式会社

1. KGI(重要目標達成指標)

KGI (重要目標達成指標)

2025年度コンテナ輸送トンキロ 目標	2024年度コンテナ輸送トンキロ 目標	2024年度上半期 コンテナ輸送トンキロ 実績
・チャレンジ目標 209億トンキロ ・必達目標 196億トンキロ	175.0億トンキロ 上半期目標83.0億トンキロ	76.9億トンキロ

2. KPI(重要業績評価指標)

視点1：貨物鉄道の輸送モードとしての競争力強化に向けた課題

KPI (重要業績評価指標)

課題	KPI (重要業績評価指標)			●2024年度主な取組内容に対する上半期トレース ○その他の取組内容 ☆下半期の対応方針
	2025年度 目標	2024年度 目標	2024年度 上半期実績	
既存の輸送力を徹底的に活用した潜在的な輸送ニーズの取り込み	・チャレンジ目標 積載率 全日平均 81.2% ・必達目標 積載率 全日平均 76.5%	積載率 全日平均 72.0% 上半期目標 全日平均 70.4%	積載率 全日平均 71.7%※	●2024年問題や顧客ニーズを踏まえた営業活動の展開 ●顧客の潜在ニーズ把握と戦略の策定 ●ターゲット顧客の選定と顧客の声をサービスに反映させるためのPDCAサイクル構築 ●31フィートコンテナご利用ニーズを踏まえた営業活動の展開、設備投資の推進 ●現場を中心として全社一丸となって、目標管理や自ら輸送力活用の検討・実施していく「アクション・輸送力活用運動」の展開 ☆貨物鉄道輸送に対する信頼の回復に向けた真摯なご説明 ☆2024年問題深刻化を背景とした顧客ニーズの把握、営業活動の展開

※輪軸組立作業における不正行為による対象貨車の運用停止に伴う輸送力減少により、積載率を上昇させる要因となった。

KPI（重要業績評価指標）

課題

 2025年度
目標

 2024年度
目標

 2024年度
上半期実績

 ● 2024年度主な取組内容に対する上半期トレース
 ○ その他の取組内容
 ☆ 下半期の対応方針

 定温コンテナ
輸送
11.2%増
(対2020年度比)

 +5.3%
(対2020年度比)

 ▲0.1%
(対2020年度比)

- 食品関係各社に対する駅見学会の実施
- 顧客・利用運送事業者との協働による新規利用、ご利用拡大の検討
- 国交省補助事業を活用した私有31フィート定温コンテナ増備の検討

☆ 上半期に実施した試験輸送を踏まえた本格輸送開始に向けた調整（食品会社等）

これまで限定的な扱いとなってきた貨物への対応

 31ftコンテナ
輸送
17.4%増
(対2020年度比)

 +9.4%
(対2020年度比)

 +7.0%
(対2020年度比)

- 特積事業者定型輸送の増、新規ご利用区間の開始
- 31フィートコンテナご利用拡大を企図した駅見学会の実施
- 本年度創設の「モーダルシフト加速化緊急対策補助事業」に呼応して、荷主・利用運送事業者への応募呼びかけとともに、新規需要対応でラウンドマッチング輸送を旨論みJR貨物運用のリースコンテナ30基の製作を計画、事業へ応募し、発注

☆ 国交省補助事業を活用した31フィートコンテナの落成・運用開始（1月）
 ☆ 31フィートコンテナご利用可能区間の分かりやすいご案内

 中距離帯
輸送
23.8%増
(対2020年度比)

 +7.8%
(対2020年度比)

 +9.2%
(対2020年度比)

- 2025年春ダイヤ改正に向けた需要把握と商品づくり
- 2024年春ダイヤ改正で増やした輸送力の活用

☆ 2024年春ダイヤ改正で増やした輸送力の更なるご利用案内

KPI（重要業績評価指標）

課題

 2025年度
目標

 2024年度
目標

 2024年度
上半期実績

- 2024年度主な取組内容に対する上半期トレース
- その他の取組内容
- ☆ 下半期の対応方針

 5tに満たない
小口貨物混載・
共同輸送の
定期ルート設定

 新しい
サービスの
展開

試験輸送実施

- 「Rail to NARITA LCLサービス」の開始
 - ・ 関西エリアから成田空港経由で輸出される貨物をエアフォワードからパレット単位で受け付け鉄道で輸送するサービスを展開
 - ・ 国土交通省が実施する令和6年度「モーダルシフト等推進事業費補助金」の交付が決定
 - ・ 7月に航空貨物フォワード向け説明会実施、9月に第1回試験輸送実施
- ☆ 下期は、2025年度中の本格運用開始に向け、毎月1回試験輸送を実施予定
- 特積事業者との協業に向けた勉強会をスタート

 積替
ステーション
設置
22駅

6駅

2駅

- 上半期は2駅(百済夕、相模貨物)への設置を完了
百済夕ではパレット貨物の積替作業サービス（有償）付きでの導入
- ☆ 下期は4駅(吹田夕、隅田川、盛岡夕、西浜松)へ設置
- ☆ 「積替サービス」を付加した「積替ステーション」の設置を推進

 これまで限定
的な扱いと
なってきた
貨物への対応

KPI（重要業績評価指標）

課題

 2025年度
目標

 2024年度
目標

 2024年度
上半期実績

 ●2024年度主な取組内容に対する上半期トレース
 ○その他の取組内容
 ☆下半期の対応方針

 国際海上
コンテナの
海陸一貫輸送
の対応

- ・輸送ニーズ、事業性の確認
- ・事業性判断後低床貨車発注

- ・年間40ftコンテナ900個/18,000 tの輸送を実施
- ・東北線経由で試験輸送実施

- ・金沢(夕)駅改良工事完了
- ・宇都宮(夕)改良工事中着手

- 「鉄道輸送とコンテナターミナルの積替円滑化に向けた実証委託業務」を受託。大阪夕～金沢夕間での40ft輸送力設定に向けて、金沢夕駅改良工事が完了、また利用運送事業者、実証協力者(荷主等)と打合せを実施
- 宇都宮実証事業に伴う、関東地方整備局との協議・覚書の締結
- コンテナホーム改良工事計画案策定及び顧客への説明会・商談会実施

☆大阪夕～金沢夕間で40ftコンテナ輸送力を設定、利用運送事業者及び港湾運営会社が主体となり実証協力者の確保に取り組む

☆横浜本牧～宇都宮夕間で40ftコンテナ輸送力を11月より設定

☆京浜港～大館間で東北線経由での40ftHQ試験輸送を2024年度内に実施

 災害時を
はじめとする
輸送障害への
対策強化

 BCP対策会議
新設
5都道府県以上

 BCP対策会議
新設
2自治体以上

 BCP対策会議
新設
1自治体

- 福岡県北九州市にて、「北九州地区（山陽線西部）における鉄道物流の災害による輸送障害に対するBCP策定に向けた官民一体の検討会」を2回開催

☆豪雨リスクが高い山陽線（東福山～広島夕間）が被災したケースを想定し、代替輸送ルート確保に向けて、岡山地区においてBCP策定に向けた官民一体の検討会の開催を計画

 (2030年度目標)
災害時
山陽線カバー率
50%
(2020年度比)

 新南陽駅の
コンテナホーム
の拡幅、
駅本屋の新設
工事に着手

 コンテナホーム
拡幅に着手

- コンテナホーム拡幅に着手
- 代行トラック駐車場について原案からの位置の変更を関係機関と協議

☆駅本屋新設予定地の上屋撤去に着手、撤去完了後に駅本屋の新設工事に着手

☆駐車場の位置変更を踏まえた2025年度以降の計画の精査

KPI（重要業績評価指標）

課題	KPI（重要業績評価指標）			<ul style="list-style-type: none"> ● 2024年度主な取組内容に対する上半期トレース ○ その他の取組内容 ☆ 下半期の対応方針
	2025年度 目標	2024年度 目標	2024年度 上半期実績	
災害時をはじめとする輸送障害への対策強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輪重測定装置 ・ トラックスケールの整備 94駅整備	33駅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各駅の調査、設計を実施 ・ 2駅の整備を完了 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2024年度に施工を行う各駅の調査設計・工事工程の作成を実施 ● 2駅の整備を完了（姫路貨物、岡山夕） ☆ 2025年3月下旬までに31駅の整備を完了（北沼、帯広貨物、北旭川、盛岡夕、東青森、神栖、西浜松、黒井、鹿児島夕、新潟夕、釧路貨物、札幌夕、水沢、仙台港、土浦、京葉久保田、越谷夕、相模貨物、京都貨物、吹田夕、東水島、高松夕、鍋島、熊本、北見、富良野、竜王、滝川、仙台西港、倉敷夕、延岡）
災害等輸送障害発生時の対応力強化	ホームページの改善	ホームページ改善の具現化とさらなる改善の検討	災害等輸送障害発生時のホームページへの表示方の改善について検討を実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害等輸送障害発生時の表示方の改善を図るため、地帯間運休本数の提示方や地帯間・全体規模を示す見せ方を検討 ● あわせて、運休情報等を提供する際の「用語」についても分かりやすい用語への変更を検討 ○ ホームページへのアクセス集中時の対策として、プロセス数の上限値を倍増させた ☆ 検討中の表示方（地帯間運休本数の見せ方等）の本運用の開始
新たな社会的要請への対応	自衛隊との定期的な意見交換	自衛隊との定期的な意見交換（4回実施）	2回実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 6/28、9/26 令和6年度における大規模演習打合せ及び鉄道版PFI事業に向けた意見交換を実施 ○ 陸上自衛隊輸送学校及び陸・海・空の自衛隊による合同駅見学を実施（東京夕3回、隅田川1回） ☆ 防衛省から示されているPFI事業について導入可否を社内で検討を進め、各自衛隊と協議を行っていく

KPI（重要業績評価指標）

課題

 2025年度
目標

 2024年度
目標

 2024年度
上半期実績

- 2024年度主な取組内容に対する上半期トレース
- その他の取組内容
- ☆ 下半期の対応方針

 新幹線による
貨物輸送拡大
に向けた検討
の具体化

- ・ 国が中心となった検討会への参画
- ・ 貨物新幹線車両の設計検討

 自動荷役
システムの
基本仕様決定

 自動荷役システ
ムの仕様決定に
向けた素案作成

- 自動化フォークリフトの現状や必要となる要件などについて、メーカーへヒアリング
- トラック等他モードとの結節も踏まえた『進化型積替ステーション』の検討
- ユーザーニーズを踏まえた設備を作るべく、大手物流会社と貨物駅構内での積替機能の要件を検討するため打合せを実施
- 貨物鉄道とトラック等他モードの結節を容易にする自動荷役システムの導入について、メーカーと打合せを実施
- ☆ 積替ステーションにおけるトラック・コンテナ間の積替自動化について、荷姿・要件・規格などを検討し、モデル駅・規模を想定、費用・効果・実現性などを算定
- ☆ 新幹線車両を想定した車両内への積込、荷卸の自動化との親和性についての検討

視点2：貨物鉄道と他モードの連携に向けた課題

課題	KPI（重要業績評価指標）			●2024年度主な取組内容に対する上半期トレース ○その他の取組内容 ☆下半期の対応方針
	2025年度 目標	2024年度 目標	2024年度 上半期実績	
誰でもいつでも利用できる体制づくり	物流MaaS(ワンストップ予約システム)基本計画の策定	新しいサービス展開を支援するシステム開発	新たに提供するサービスの検討と使用するクラウドサービスの選定	●発着地等条件入力により、輸送ルート、リードタイム、輸送余力等が検索できる画面の提供について、画面構成の検討実施 ●積替ステーションの予約を管理するシステムの開発において、使用するクラウドサービスの選定 ●ホームページの事例紹介画面の改修内容決定 ☆発着地等条件入力により、運賃、リードタイム、CO2排出量等が検索できる画面の詳細設計、発注と実行 ☆ホームページの事例紹介画面の改修の発注と実行
パレチゼーションの推進	パレットデポ設置22駅	5駅	新たに養生資材レンタル事業の検討	●トラックボード等の養生資材レンタル事業の検討 ☆従来型のパレットデポは、八戸貨物・福岡夕に設置 ☆「養生材レンタル事業」の検討・設置を推進 ☆養生材レンタル事業については、需要を見極めて協力事業者と連携し進める
貨物駅の高度利用・貨物鉄道のスマート化の推進	レールゲートからの発送3%増/年	+3% (2022年度比)	▲14.5% (2022年度比)	●鉄道用クロスドック機能の営業活動推進 ●鉄道利用顧客へのテナントリーシング ☆新規テナント入居に伴う安定的な鉄道利用と拡大に取り組む ☆JR31フィート返送コンテナの積化について、物流事業者・テナントと連携し東京レールゲートにおけるクロスドック実施を計画 ☆鉄道未利用テナントへの提案営業実施

課題	KPI（重要業績評価指標）			
	2025年度 目標	2024年度 目標	2024年度 上半期実績	●2024年度主な取組内容に対する上半期トレース ○その他の取組内容 ☆下半期の対応方針
貨物駅の高度利用・貨物鉄道のスマート化の推進	コンテナ留置レイアウトの見直しによるキャパシティ拡大 ※年/300個分	コンテナ留置レイアウトの見直しによるキャパシティ拡大 ※300個分	150個分	●一部の私有コンテナの駅構内占有の解消（仙台タ、大阪タ、百済タ） ○廃用コンテナの撤去及び留置箇所の見直し ☆コンテナの置き方見直し、コンテナ検修庫付近のレイアウト見直し、私有コンテナ滞留抑制策の検討など

視点3：社会・荷主の意識改革に向けた課題

課題	KPI（重要業績評価指標）			
	2025年度 目標	2024年度 目標	2024年度 上半期実績	●2024年度主な取組内容に対する上半期トレース ○その他の取組内容 ☆下半期の対応方針
貨物鉄道輸送の特性に関する認知度向上	CO2概算排出量削減情報提供サービス導入	ホームページ等の案内方法改善	画面構成の検討実施	●発着地等条件入力により、輸送ルート、リードタイム、輸送余力等が検索できる画面の提供について、画面構成の検討と合わせて、CO2排出量やトラック輸送との比較による削減量を算出及び提供できる画面構成の検討実施 ☆上記画面の詳細設計、発注と実行
貨物鉄道利用促進の制度設定	荷主に対するインセンティブ案の確定	<ul style="list-style-type: none"> 線区別条件を反映した原単位の検討推進 インセンティブの提供 	算定式の確実性検討と他線区モデルの検討	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関の協力のもと、2023年度調査による算定式の確実性検討と、他線区データを用いた試験的な算定の検討 ☆実際の機関車運行データを用いた算定式の確実性検証の実施と、算定式を用いた他線区モデルの策定実施 ☆貨物鉄道利用によるCO2削減効果を明示した証書の作成